



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

カタール：リブニ・イスラエル副首相兼外相カタール訪問

(4月15日付現地各紙)

リブニ・イスラエル副首相兼外相は、13日からドーハで開催されている第8回民主主義・開発・自由貿易フォーラム(ドーハ・フォーラム)の「国際的な対話：国際平和への影響」と題するセッションに参加し、以下のように発言した。

1. 私(リブニ副首相兼外相)は、友好と尊敬の精神に基づき、カタールからの招待を受け入れた。両国は、困難な局面においてさえ、関係を継続してきた。私の出席は象徴的であり、他のアラブ諸国にとって模範となりうる。
2. 民主主義は価値あるシステムであり、人間の基本的権利である。だが、今日、世界の異なる地域で、過激主義者が選挙を通じた民主的なプロセスに加わり、暴力的アジェンダを強く要求している。
3. テロにどう対処するのかという問いは、全世界に投げかけられている。その過激なイデオロギーを強制するために権力を獲得して民主システムの乱用を望む者たちから自己を防衛することは、民主主義の完全な権利である。
4. イスラエルは、パレスチナ国家への最初の足がかりとして、ガザ地区から撤退し、入植地から撤去し、パレスチナ自治のための機会を提供した。イスラエルの生存権を認め、テロではなく平和の道を歩むことを望む現実的なパレスチナ人との和平協議が行われている。平和は、このような二国家共存という解決を支持するパートナーによって実現されうる。紛争は解決可能である。我々には、隠されたアジェンダなど存在しない。なぜなら我々はお互いを理解し合い、平和に安全に共存したいと願っているからである。
5. イスラエルは、パレスチナ人民が正当な権利を有していることを認めている。我々にはパレスチナ人生活を支配する意図はない。イスラエル人にも同じ権利が与えられている。パレスチナ国家がイスラエルの利益となるのと同様に、イスラエルの安全確保はパレスチナの利益となるに違いない。
7. 我々は、扇動や憎悪を取り除くことで、共に相互理解を深めていくことができる。これは、中東地域に継続的な平和をもたらす唯一の道である。私は、アラブ世界にこのイニシアチブを受け入れてもらいたい。イスラエルのためにだけでなく、パレスチナ及び中東全域のために。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799